



第38号 2015年5月25日 Chumpan

ムーダンは古代では天の意志を伝える人たちだった。北方の遊牧民族は、鳥を天からの使いだと考えた。鳥は天と地を繋ぎ、生き物なので、天の意志を地上の人間に伝える一方で、死んだ人の魂は鳥に乗って天に戻ると考えた。チベットの鳥葬が正しくそうであり、モンゴル相撲では、勝者は鳥のように羽ばたく仕草をする。ユダヤ人も手を上げて鳥のように広げて踊るし、韓国舞踊も、手を広げて踊る。それは怖らく、人の思いを天上に伝えるための儀式から出ているだろうと想像がつく。

は神の使いである。日本の古事記によると、日本武尊(ヤマトタケルノミコト)は滋賀と岐阜の県境にある伊吹山の神を討ち取るために出かけた。しかし神の怒りに触れて体力を消耗する。山を降りて尾張から三重へと移動した。しかし遂には鈴鹿山脈を越える途中で命を落とした。ヤマトタケルノ命(ミコト)は両手を八回広げたほどの大きな白鳥になって海辺に向かって飛んでいった。后や御子たちはそのあとを泣きながら追いかけていった。やがて白鳥は河内の国の柏原の辺りで留まった。それでそこに墓を作った。白鳥はそこから天に向かって飛び去った。

ここで白鳥は魂そのものである。人の魂が死んでこの世を彷徨い、自分の墓の場所を示し、それから天に昇って行ったのである。鳥即ち魂の化身という潜在意識は、古くから多くの民族に共通していたと思われる。新羅の古墳からの出土品を見ると、船の舳先に鳥がいる土偶がある。埋葬された者の魂は船に乗り、それを鳥が天まで案内する、という思想を持っていたことが分かる。新羅の始祖は卵から生まれた。高句麗の始祖である朱蒙(チュモン)もまた卵から生まれている。これは南方系の発想である。このことから朱蒙が生まれた紀元前58年ごろには、中国の東北部には倭人が住んでいたことが分かる。この倭人は日本を作った倭人とは別系統である。なぜなら日本には卵生神話が伝わっていないからである。卵生神話を持つ者は、この世そのものが大きな卵の中にあると考えていた。太陽は半円の卵の中を動き、月も卵の端から昇ってくる。それで天を、大きな(ハン)卵(アル)、と呼んだ。「ハン」は偉大なという意味であり、「ハングル」のハンは

これである。「グル」は文字という意味である。さて「ハンアル」はリエゾンするので「ハナル」と発音する。これが転じて「ハヌル」になった。「ハヌル」は現代韓国語で天や空を意味する言葉である。天にいる偉大な方は「ハヌル ニム」である。転じて「ハヌニム」は神さまという意味である。神さまを「ハナ ニム」というのは、キリスト教の信者である。「ハナニム」の「ハナ」は一という意味で「ハナニム」は唯一神という意味になる。江戸つ子が「ハナから駄目だ」というときの「ハナ」はもと韓国語である。飛鳥について説明する。大和、百濟、飛鳥、など、文字本来の発音と実際に使われている発音が一致しないものは、意味は漢字で、発音は古代朝鮮語だろうと私は考えている。飛鳥のものは「arsuka」だろう。「ar」は現代韓国語では「nar」である。飛ぶという意味である。古代朝鮮語では自分のことを「a」といつていた。現代は「na」である。日本の古後でも自分のことを「あ吾」といつている。もとは同じだろうと推測している。このことから「ar」から「nar」への変化は自然な変化である。「su」は現代語では「sae」すなわち鳥という意味だろう。「ka」は行くという意味である。よって「arsuka」は飛ぶ鳥の行くところ、即ち天が示した場所という意味である。ヤマトタケルノ命の説話と同じ

遷都の反対派を押しえ込むために、あそこは「arsuka」の地だからと、いつて納得させたのだろう。神社の前に立っているものを鳥居という。鳥居は鳥がいるから鳥居というようになったと考えられている。ヤマトタケルノ命の伝承、飛鳥の語源から考えても、聖なる場所には鳥がいてしかるべきである。鳥がいることでそこが特別な場所と示すことができる。さて、鳥居の元になったと考えられている朝鮮南部の「ソツテ」の先には、鳥の彫り物が置かれている。ソツテは直訳すると「飛び出た竹の棒」という意味である。「ソツテ」は細い棒の先に鳥の彫り物を置いてトーテムのように立てる。またムーダンは細い竹を、神を下ろすのに使う。ムーダンが佳境に入り、トランス状態になると、持っている細い竹の棒が震え出す。これを「シン ドウ ルリム」という。直訳すると「神入り」である。竹の棒を伝わって神はムーダンの体の中に入り込むのである。「ソツテ」という言葉は下関の「数方庭祭り」の「数方庭」の語源である。この祭りでは長い竹に幟をつけて練り歩く。神を竹に引っかけて下ろそうという発想は同じである。下ろした神を留め置くものが依り代である。山そのものを「神体」とするのは、もとは北方遊牧民族のもので、それが日本にも伝わっている。白鳥と山とが合体すると、白山信仰になる。白山という名前の山は、韓国にも日本にも多く存在する。

ムーダンの考

李起昇

高・年・世様へ。



今年、初めて冬の韓国を訪れる機会がありました。昨年夏、高敞(コチャン)で行われた金美善先生ワークショップ第二弾が、禮山(イエサン)にある伝統楽器音楽院であったからです。あなたが年輪的にまだ、伝統音楽の面白さを知らなかったであろう二十数年前、長野・美麻村遊学舎で行われた、サムルノリのメンバーによるワークショップを思い出しました。もうすでに御存知でしょうが、池袋・東京芸術劇場他で行われた、梁順龍先生たちをお招きした任實・筆峰(イ

ムシルピルボン) 農楽ワークショップ(注1)のことも。また、YMC Aで行われた李梅芳先生によるサルプリ舞もありましたね。そして、去年十一月の陳玉燮監督による鶴舞(ハクチュム)です。その時、監督のお連れ合いであり通訳として来日したのが、風物牌(フンムルペ) ウリト(注1)で一緒だった高年世だとは。ところで、日本舞踊には具体的な振りが多いですが、抽象的といわれる韓国舞踊に、鶴舞のような踊りは珍しいのではないのでしょうか？(この答えは追伸にあります)

でも、なんと、始まった音楽は、のっけからケンガリが鳴り響き、まるで風物(フンムル)が始まるの？ と思わせるような出だしでしたよ。そして、我等鶴？ が飛んで回った後、突然、自由に踊る？ 想定外の展開でした。困りましたねー。これが何度も出てくるのですから。(風物では自由に踊るけど、名前のつく舞踊にはあまりないと思います。でも、サルプリ舞の中で趙寿玉先生は、ここは好きに踊っていいよ、とおっしゃ

る部分があるにはあるけど) 元々、踊りの順番を覚えるのが遅い上に、自由に踊ることで、次の踊りの流れが遮断されてしまうのです。そのとき気がつきました。舞踊は、何度も繰り返して同じ動きを練習することで、体が次の流れに、自然に入っていくことを。今ごろですかと言われそうですが。ある程度説明を受けた後、二つの班に分かれて踊ることになりましたね。Aグループは、まるで母鶴が子鶴を引き連れて、餌を探しまわる様子が微笑ましく、Bグループは若い鶴が、我々年配鶴に気を配って、まるでチュムパンそのもののような様子でした。

チュムパンができる以前、私は趙寿玉先生に韓国舞踊を教えていたのだ。その、十数年前に一度踊りを辞めています。再び、踊りを続けることができたのは、先生始めチュムパンの人たちが、受け入れてくれたからに他なりません。もどつてくる人って珍しいよね、と言われながら。最後に、陳監督が、韓国舞踊に對峙なさる時のゆるぎない姿勢、舞踊界の歴史を背負ってきた方々に接する時の溢れる想いと、そんな監督を支え続け、奮闘している年世に拍手を送りたいです。



追伸…素敵な装幀の、DVD付き本を受け取りました。その本によると、要するに、ソンビ(官についていない、風流を解する儒学者たちのこと)がトツポという長い振り袖の白い韓服

や、つばの広い黒い帽子「カツ」をかぶって踊る姿が、まるで鶴のようだったので、鶴舞と呼ばれるようになったということなのでしょう。注(1)：80年代の後半から90年代にかけて、韓国の打楽器やサムルノリ(*1)に興味をもった人たちが、日本にも数多くいました。自分たちもチャングやケンガリを叩き、そこから風物のグループ、平沢(ピョンテク)・ナグネ・ウリバラム、松山ヨロガチなどが生まれました。そんな中、92年に韓国人留学生とともに結成されたのが、風物牌(フンムルペ)(*2)ウリト。

95年3月の、全羅北道任實郡筆峰の村に伝承された農楽、湖南左道任實筆峰クツのサンセ(先頭でケンガリを叩く指揮者みたい)であった、梁順龍先生をお招きしてのワークショップには全国から、たくさんのファンが集まりました。その後は、韓国からの留学生も集うようになり、公演では、老若男女を問わず、技術ではなく楽しく楽器を叩き、自分の役割を知り、その場に居る人たちも踊り、飛びはねるような開かれた風物クツを目指している。それこそが名前の由来、フンムルペ(風物をする仲間)ウリト(私たちの場)なのです。(よしなり・のぶこ…水曜クラス)

編集部注

*1 サムル…四つの代表的な物品を指す。本来は仏教用語。転じて、農楽の四種類のリズム楽器を指す。普通はチャング、プク、ケンガリ、チンの四種類。ノリというのは遊びのことで、四種類の打楽器で演奏することをいう。

*2 風物牌(フンムルペ)：サムルとは農楽で用いる楽器の総称で、べとはグループの意味。農楽演奏集団のこと。

吉成(加賀美) 信子

キム・ミソン先生をお迎えして

権 鮎美

2015・2・13(金)〜18(水)
 キム・ミソン先生をお迎えして、口音(クウム) (*1) 剣舞を主に、ソンスルプリとミンスルプリのワークショップが行われた。

恋い焦がれ待ち望んだ口音剣舞、いよいよ習う事を許された。ましてやキム・ミソン先生から教わるという滅多にないチャンス到来!!

今回参加者総勢16名。作品を習うとき食欲になりたい気持ちもあるが、つい遠慮して後ろや端っこに行く癖がある。生徒の場所は固定ではなく何度も交代しながらだったので助かった。初日、巡回する先生は私の方へ近付いて来て、「首筋にシワができるのは肺で呼吸しているから。横隔膜動かして、もつと!! もつと!! 息吐いて!! 吐いて!! プルセヨ!! (*2)」またある時「こもつとひねって!!」と、私の肩や胸のあたりを押さえたり、上半身をぐいと捻ったりと手取り足取りのご指導に大変有難く思う。同時に自分の呼吸の浅さや身体の硬さを改めて知り、頭と身体がバラバラでもどかしく、こんな私が習うなんてと申訳なくなったり…。後半たまたま一番前で習う機会が。座ったまま剣を持たずエアでの振り。何度やっても皆違うと言われる。先生の動きをよくよく見ていたらバントマイムのように引つ張つてるのが解り褒められ、内心子どもの様に嬉しかった(笑)

わるので、かなりのピッチで進めている。大まかでも最後まででは行かなきゃとずんずん進む。細かいところはさて置き…かと思いきやあまりにも呼吸ができなくヘンテコリンな私達。細部まで説明してくれる。

「呼吸へヤへ (*3)」 「自然に」呼吸するから自然に手がついて動いていく。呼吸をするからこの動きが生きてくると先生。 「自然に」私はこの言葉が好きなのだが、日々忘れることの方が多い。ミソン先生何度も仰つていた。「テーサンソーサン (*4)」 寿玉先生も、同じこと繰り返すのは詰らないからねとよく仰る。チャンゴのチェでタルルルルくと叩く時、高所から落下するボールの動き、水面に広がる波紋…そういうのがさうかな? 1, 2, 3の単純なリズムでなく、ハナアア、トウル…とバネの様な粘りながら回転するような動き。丹田の部分でそれを意識する。頭には何故かサイン、コサインの図が浮かぶ。ミソン先生は自然のイメージを例にした説明をよくされていて、聞いているとそのような自然界の情景やそれらを表す数式が度々浮かんで来たり。ミソン先生の踊りに生きた姿勢、私達の住む地球や宇宙それら自然から人間もそしてこのチュムも生れ、全て自然の一部であるというエッセンスを感じ、とても共鳴していることに気付く。寿玉先生からミソン先生が「私は言い過ぎてないか、これで良いのだろうか

かと夜ホテルで反省をしている」という話を聞き、深い愛を感じ涙浮かぶ。当然韓国語で進められる。8割程度は解るが日本語に訳せない単語も多々。振り覚えの悪い私はただでさえ四苦八苦なのに、さらなる想像力フル回転で頭はクラクラ。帰り道はもちろん毎晩振りや長短(チャンダン) (*5) が気になって何度も目が覚める。ミソン先生は習う時のストレスはとても大事なことだと仰つていた。

ソンスルプリの稽古は2回あり、私は1回のみ参加した。

先生は、皆が振りを覚え、ある程度まで進んできたので教えるのが楽だと仰つていた。一つ一つの動きに深みの味付けがなされ、どんどん進化して行く。去年習ったばかりの初級組とは違い先輩オンニ達はさすがが様になつていて呼吸が深い。剣舞で頭がパンクしそうな私は、一瞬成程! と思いやつてみるがとて悲しい事態に…言われたことを思い出しその進化を少し掴めた部分もあるが、時間経過と共に気づくと前の踊り方に戻っている今、いとなし。

ミンスルプリは、去年韓国でのワークショップに参加された方中心なので、私はどんな様子だったかはわからない。いつか習いたく、許されるその時を待とう。

貴重な機会を作つてくださり心から感謝いたします。

寿玉先生、ミソン先生、舞踊家として生きているお二人にはどんなにもがいても追いつけないがその軌跡を辿り少しでもそこにも近づけたなら…。仲間達と探りあう時間がまた貴重であり楽しい。自分が感じたものをあーかな? こーかな? と揺れながら蟻さんの一歩の如く、ヨンブル、タリヨン (*6)、クルリミョンソ (*7)、コロガゴシッタ (*8)。あいらぶ、くうむ、こんむ!! あいらぶ、ちゅむ!! (クオン・チュムミ…十曜クラス)

編集部注

*1 口音(クウム) : 韓国式スキヤット

- *2 プルセヨ…吐いて下さい。原義はほどく、ゆるめる。Purse yo
- *3 ヘヤへ…しなければならぬ hae yahae
- *4 テーサンソーサン…直訳は「大袖小袖」 tae samso sam. 強弱をつけるという意味で使う。
- *5 長短(チャンダン)…リズムパターンのこと
- *6 ヨンブル、タリヨン…いずれもチャンダンの名前
- *7 クルリミョンソ…直訳は転がす、回すの意味。踊りでは膝で強弱をつけることをいう。
- *8 コロガゴシッタ…歩いて行きたいという意味。 kore gaga sip ta



汗かき 恥かき、チャレンジ!!

田村俊子

「少しでもボケ防止に役立つたら
……」というのが韓国舞踊を習い始
めたきっかけです。どんな踊りか見
学に行った時、ゆったりした動きと、
ゆるやかな上下運動に両手を軽く動
かしているだけ……に見えた私は、
「あ、これなら私にも出来る」と思い、
すぐ入会を決めました。

ところが見るのと実際に踊ると
は大違い。どんな国の踊りでもそう
でしょうが、ただ見ているだけと実
際に踊るとでは、かなり落差があ
るもの、とは思いますが。けれど韓国
舞踊はその落差大き過ぎ!! あのゆ
るやかな動きの中に、どれだけ腹筋
や足の筋肉を使いまくっていること
か。形だけ真似て踊っても先生に

「呼吸をしていない……」と注意さ
れます。振りもとてもよく考えられ
ていて「次の振りに移るには重心
を右足に移しておかなければならな
い」とか「次に伸び上がるには、膝
を深く曲げておかなければならな
い」などのように、一つひとつ振
りに意味があり良く考えられている
なあ、と感心します。

重心を移動する、呼吸で踊る……
ということが出来るようになる前
に、手足の形すら満足に出来ず、何
度もなんどもやり直し!! やり直し
ばかりで先生や仲間にも申し訳なく
「わかりました。あとは家で練習し
て来ます」と言う、「いつもそう
言うけど次にも出来ない。今こ

こでしっかり体に入れなさい」と先
生からの鋭い指摘。先生はちゃん
とお見通しです。そう、今ここで出
来ないことは後になっても出来つこ
ないのです。トホホ……。

ゆったりコースでもとても厳しく教
えていただいています。汗かき、
恥かき、道は遠そう。でもくじけず
何とかついていって「韓国舞踊つて
楽しい……」と思える境地にたどり
つきたいです。

私は韓国舞踊には二つの流れがあ
ると思います。一つはドラマなどに
出てくる満面の笑顔で華やかに踊る
もの、もう一つは教室の発表会やお
さらい会で見た僧舞やサルプリ舞の
ような踊り。稽古で習う、すり足の
足の運び方や、体の芯に力をためて
静かに動く、などの所作と共に後者
の踊りには日本の「能」を感じます。

大好きな能の雰囲気
に少し近寄れて
嬉しい。でもやは
り舞踊なのでリズ
ム感も出したいし
……と欲張りな希
望を持って前向き
にチャレンジし続
けようと思ってい
ます。

(たむら・としこ
木曜ゆったりコー
ス)

……



◎2014年11月8日(土) 13:30~17:00

朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会in川越
川越市市民会館 大ホール

◎2014年11月22日~24日(土~月)

マダンチュム ワークショップ
東京・新宿区 地域センター 主催:趙寿玉チュムパンの会

◎2014年12月14日(日) 14:00から

趙寿玉チュムパン おさらい会
東京・新宿区 牛込笹笥地域センター

◎2015年2月13日(金)~18日(水)

金美善先生 舞踊ワークショップ
東京・新宿区 地域センター 主催:趙寿玉

◎2015年3月8日(日)

老人ホーム「大泉学園さくらの家」のお祭りに参加
東京・練馬 大泉学園

◎2015年3月13日(金)

「韓国芸人列伝7」出演
韓国国立国楽院・牛眠堂

◎2015年3月14日(土)

**「月刊」舞踊とオペラ「創刊3周年記念
第2回大韓民国名舞展」出演**
韓国国立国楽院・芸樂堂

◎2015年3月22日(日)

BS朝日テレビ「いま世界は」出演

活動予定

◎2015年6月14日(日) 15:00~

町田子ども劇場に出演
東京・町田 和光大学ポプリホール鶴川

活動報告

◎2014年8月15日~17日(金~日)

金美善先生のワークショップに参加
主催:韓国・コチャン 農楽伝授館

◎2014年10月28日(火) 19:00開演

宮崎節子 韓国舞踊ソロリサイタル「折々の佳節」
東京・杉並 杉並公会堂 小ホール
後援:趙寿玉チュムパンの会

◎2014年10月29日(水) 19:00開演

日韓交流音楽会 海を渡る笛の風
東京・北区 北トピア ツツジホール

◎2014年11月1日(土)

「韓国伝統衣装・李ソユン 韓服ファッションショー」
大阪・あべのハルカス 近鉄アート館

◎2014年11月7日(金) 19:00開演

韓絃楽 滅紫月(けしむらさきのつき)
東京・南青山 鏡仙会能樂堂